

インタビュー課題にどう取り組むか

サバイバルガイド

Introduction (はじめに)

先生から「留学生にインタビューをきなさい」と言われましたか？それは少し怖いと感じるかもしれません。あるいは混乱するかもしれません。あるいは両方かもしれません。何を聞けばいいのかわからない。自分の英語が心配。どこから始めればいいのかわからない。でも大丈夫です。インタビューは試験ではありません。目的のある会話です。ここでは、その状況に一步步対応するためのシンプルなガイドを紹介します。

1. 課題 — そもそも何をすればいいのか？

始める前に、自分に問いかけてください。

- 具体的にどんな課題なのか？

先生によって指示は少しずつ違います。必ずよく確認してください。

- 質問はいくつ必要ですか？
- オープン・クエスチョン（回答が Yes/No ではない質問）でなければなりませんか？
- インタビューの回答を、異なる国や複数の学生の回答、自分の予想などと比較する必要はありますか？
- 実際にインタビューをした証明は必要ですか？
- 時間制限はありますか？
- 録音や録画は必要ですか？

指示は必ず二回読みましょう。わからないことがあれば、始める前に先生に確認してください。後で困るよりずっと良いです。

2. 準備 — 準備なしに良いインタビューはできません

何をすべきか分かりましたか？

では、しっかり準備しましょう。

Step 1: インタビュー相手を探す

SALC のホームページ <https://home.hirosaki-u.ac.jp/salc/conversationspace/>を確認するか、直接 English Lounge に行って、誰がいるか見てみましょう。面白い答えがほしいなら、テーマに合った相手を考えることが大切です。もし学生がいなければ、デスクワーカーに相談してください。場合によっては先生にインタビューできることもあります。

最初に見つけた人をそのまま選ばないでください。考えましょう。

- ・その人はどこの出身ですか？
- ・それはあなたのテーマと関係がありますか？
- ・その人の背景は有益な視点を与えてくれそうですか？

Step 2: 質問を準備する

ここが一番重要です。「その場で何とかする」はやめましょう。きちんと質問を準備してください。まず友達に聞いてみるのも良い方法です。すると、

- ・質問が分かりにくい
- ・自分の意図と違って聞こえる
- ・思わぬ答えが返ってくる

といったことに気づくかもしれません。それは良いことです。本番で気づくよりずっと良いです。

良い質問のためのショートガイドアドバイス？

- ・オープン・クエスチョン(Open question)とクローズド・クエスチョン(Closed Questions)

・クローズド・クエスチョンの例：「日本は好きですか？」

→「はい／いいえ」で終わります。

・オープン・クエスチョンの例：「日本で生活していて一番好きなことは何ですか？」

→説明が必要になります。

インタビューでは、開かれた質問のほうが会話が広がります。

・**ダブルバーレル・クエスチョン(Double-barrel Question)**を避ける

ダブルバーレル・クエスチョンとは、一度に二つのことを聞く質問です。二重質問とも言われ、回答者がどちらの質問に答えれば良いか混乱を招く場合があります。

「日本食と日本文化は好きですか？」

もし食べ物は好きだけど文化は好きではなかったら？

より良い例：

・「日本食についてどう思いますか？」

・「日本文化についてどう思いますか？」

一つの質問に一つのテーマ。シンプルにしましょう。

・**誘導的な質問 (Loaded Questions)** を避ける

誘導的な質問とは、すでに前提や判断が含まれている質問です。

例：

・「なぜ日本の大学教育はそんなに大変なのですか？」

・「なぜ留学生はそんなに苦労するのですか？」

これらの質問は、「大変だ」「苦労している」という前提を含んでいます。

その結果、

- ・相手を不快にさせる可能性がある
- ・特定の答えに誘導してしまう
- ・本音を聞き出すことができなくなる

より良い例：

- ・「日本の大学生活をどのように感じていますか？」
- ・「日本で勉強する中で、もしあれば、どのような困難を経験しましたか？」

中立的な質問は、より正直な答えを引き出します。インタビュアーの役割は、自分の意見を証明することではありません。相手の視点を理解することです。もし質問が「もう答えを知っている」ように聞こえるなら、書き直してください。

・広すぎる質問を避ける

例：

「教育についてどう思いますか？」

これは大きすぎます。曖昧で答えにくいです。

より良い例：

- ・「あなたの国の大学生活と日本の大学生活の違いは何ですか？」
- ・「日本で勉強していて一番驚いたことは何ですか？」

具体的な質問ほど、具体的な答えが返ってきます。

・聞くべきでない質問

注意が必要なのは：

- ・非常に個人的な質問（収入、宗教、政治的意見など）
- ・ステレオタイプを前提とした質問
- ・相手を不快にさせる質問

迷ったときは自分に問きましょう。「自分がこれを聞かれたら、気持ちよく答えられるか？」もし答えが「いいえ」なら、質問を見直してください。

3. インタビュー本番 — いよいよ実践

Step 1: 始め方

English Lounge に行き、Interview Worksheet を取りましょう。

一人で行くか、友達と行くかを考えてください。どちらも問題ありません。自分が一番力を発揮できる方法を選びましょう。

そしてインタビュー相手を探します。忙しそうに見えても、丁寧に聞いてみましょう。できれば、あらかじめ具体的な所要時間を伝えるようにしましょう。

「すみません、今少しだけ、10分ほどインタビューのお時間をいただけますか？」
最悪の場合、少し待つように言われるだけです。

Step 2: 面接プロセス

・姿勢を整える

簡単なことですが大事です。不自然な姿勢では、自分も落ち着きません。きちんと座りましょう。リラックスしましょう。深呼吸。

・自己紹介をする

まず伝えること：

- ・自分の名前
- ・授業名
- ・テーマ

すべてを細かく説明する必要はありません。目的が分かる程度で十分です。

・録音する？しない？

録音は便利です。しかし、

- ・人にはプライバシーの権利があります。
- ・録音されることで緊張する人もいます。

必ず許可を取りましょう。そして考えてください。本当に録音は必要ですか？良いメモで十分な場合もあります。

・「一般化」と「相手が間違っているかもしれない」という点

インタビュー相手は、その国全体を代表しているわけではありません。あくまで「その人」の考えです。例えば、東京出身の学生と弘前出身の学生では答えが違いかもかもしれません。雪が好きな人は、弘前の天気を最高だと言うかも知れません。しかし、それが普遍的な真実とは限りません。

インタビュー後には：

- ・背景情報を確認する
- ・他の視点と比較する
- ・必要なら事実を確認する

ことが大切です。インタビューは意見や経験を集めるものです。絶対的な真実ではありません。場合によっては、完全に間違っていることもあります。そのときは、「間違っている」と決めつけるのではなく、自分に問いましょう。

- ・なぜその人はそう考えるのか？
- ・どんな経験がその意見を形作っているのか？
- ・他の情報源はどう言っているか？

批判的思考は、学生にとって重要なスキルです。異なる考えを通して自分を知る機会にもなります。

・フォローアップ質問

質問は準備しましたね。良いことです。しかし、興味深い話が出てきたら、台本に縛られすぎないでください。

例：

- ・「もう少し詳しく教えてもらえますか？」
- ・「なぜそう思うのですか？」
- ・「具体例を挙げてもらえますか？」

これによって、インタビューの質は大きく向上します。

・メモは重要

録音していても、必ずメモを取りましょう。重要なポイントに早く気づけますし、フォローアップもしやすくなります。

また、

- ・日付
- ・場所
- ・インタビュー相手の名前

も記録しましょう。必要であれば、English Lounge の活動報告書を証明として利用してください。

・時間管理

インタビューは2分で終わることもあれば、2時間続くこともあります。最終的には、目的と自分のスキル次第です。ただし、相手の時間を尊重してください。必要以上に引き延ばさないことも大切です。

・Step 3: 最後の挨拶

インタビュー相手は一人の人間です。「終わり」と言って去らないでください。

- ・ありがとうございました。
- ・お時間をいただき感謝します。
- ・とても興味深かったです。

余裕があれば、少し雑談して、感想を伝えるのも良いでしょう。

4. 最後のアドバイス

これらのシンプルなポイントを守れば、インタビューはよりスムーズで、より興味深く、よりプロフェッショナルになります。

しかし一番大事なのは：

楽しもうとすること。これは単なる課題ではありません。新しい人と出会い、異なる視点を知り、コミュニケーション能力を高める機会です。あなたの姿勢が大きな違いを生みます。好奇心を持って。オープンな気持ちで。

そうすれば、意外と楽しい経験になるかもしれません。

新しい出会いのチャンスでもありますし、その姿勢が人とのつながりを作りやすくしてくれます。